

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 9月 28 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170503593		
法人名	メディカルケア・サービス北海道(株)		
事業所名	愛の家グループホーム札幌平岡		
所在地	札幌市清田区平岡8条2丁目4-15 (電話) 011-886-3660		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	平成19年10月16日

## 【情報提供票より】 ( 19年9月1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年10月28日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 2人, 常勤換算	12.8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1	階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	64,000 円	その他の経費(月額)	21,000 円
敷金	有 ( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

### (4) 利用者の概要 ( 9月27日現在 )

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名
要介護3	2 名	要介護4	2 名
要介護5	3 名	要支援2	名
年齢	平均 87.2 歳	最低 78 歳	最高 98 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	新札幌聖陵ホスピタル 柏葉脳神経外科病院 ラビット歯科
---------	-----------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の中にある平屋建ての新しいグループホームである。建物は広く開放的な造りで、入居者やスタッフにとって快適な環境が提供されている。企業のグループホームへの支援体制が整備され、食事や医療、移動手手段などのバックアップが充実している。自己評価や外部評価に対する意識も高く各項目に積極的に取り組んでいる。個人ごとに変えた「グループホーム便り」を作るなど、一人ひとりに合わせたきめ細かいサービスを提供している。スタッフの外部研修、社内研修の体制も整っており、サービスの向上が図られている。入居者が楽しく生活しており、スタッフ同士の人間関係も良好で明るいグループホームとなっている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 市町村との係わりについて、積極的に情報交換している。救急救命訓練についてはまだスタッフ全体の定期的な受講には至っていない。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) ガイドブックを参考にし自己評価に全員で話し合っており取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を2ヵ月に1度開催し、地域への情報発信、行事、防災などをテーマに活発に意見交換している。会議の議事録も作成されている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 来訪時や電話での報告のほか、運営推進会議に家族にも参加してもらっている。ホーム内に「意見箱」を設置したり、本社から家族にアンケートを送付している。重要事項説明書に第三者の苦情処理窓口を明記している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームとして町内会に加入しているほか、入居者個人で町内会に加入している方もいる。ホームの夏祭りに近所の方約60名が参加したり、ホームの庭に近所の子供が虫取りにきている。町内会でホームや認知症の説明をする機会を設けている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の中に「さまざまな機会を通じて地域の人々のふれあいを大切にします」という項目を盛り込み、地域密着を重視している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、各スタッフから見やすい場所に掲示されており、毎朝の朝礼時に復唱している。日々のミーティングやスタッフ会議でも共有化が図られている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとして町内会に加入しているほか、入居者個人で町内会に加入している方もいる。ホームの夏祭りに近所の方約60名が参加したり、ホームの庭に近所の子供が虫取りにきている。町内会でホームや認知症の説明をする機会を設けている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価をもとに改善項目に取り組み、成果をあげている。ガイドブックを参考にし自己評価にも全員で話し合っ取り組んでいる。		

札幌市 愛の家グループホーム札幌平岡

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヵ月に1度開催し、地域への情報発信、行事、防災などをテーマに活発に意見交換している。会議の議事録も作成されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の担当者にホームの情報を伝え連絡を密にしており、何かあればすぐに情報を得ることができる。運営推進会議においても包括支援センターと情報を密にしている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者ごと「グループホーム便り」を作成し金銭出納報告とともに毎月家族に送付している。来訪時の報告、電話での報告をきめ細かく行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話での報告のほか、運営推進会議に家族にも参加してもらっている。ホーム内に「意見箱」を設置したり、本社から家族にアンケートを送付している。重要事項説明書に第三者の苦情処理窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの交代を極力少なくしている。結婚などで退職するスタッフもいるが時々遊びにきてくれている。過去に交代で入居者がダメージを受けたケースはない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全てのスタッフが外部研修の機会を数多く与えられている。社内の研修体制も整っている。スタッフ同士のコミュニケーションもよくできている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区で年に1度グループホーム交流会があり参加している。管理者会議等の参加を通してスタッフ同士の交流もできている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にスタッフが家に何度も訪問したり、入居前に何度かホームに遊びにきてもらうなどしている。本人がすぐにホームに慣れない場合は家族に数日一緒に部屋に泊まってもらっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、入居者の一人ひとりのペースに合わせて活発に話し掛けている。人生経験を引き出すような話掛けを心掛けていく。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にセンター方式の生活歴シートを家族に作成してもらい、入居後は後から得た情報を細かく蓄積している。日常起こったことを家族に伝え、それが何を意味するか教えてもらうなど、理解が深まるよう取り組んでいる。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を尊重し、スタッフ全体で意見交換を行ない、きめ細かい介護計画を作成している。家族には介護計画作成後、同意のサインをもらっている。同時に、本人がどうありたいのかを分かりやすい言葉で表現したシートを作成し共有化している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヵ月ごとに介護計画を見直し作成している。各ユニット月に1回3人ずつのカンファレンスを行ない見直ししているが、その月の該当者以外でも必要に応じて見直ししている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	提携病院の送迎を行なっているほか、提携以外の病院で家族が送迎できない場合は送迎を行なっている。ホーム入居時、退去時の引越しの支援も行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、提携医療機関の往診を受けている。そのほか1週間に1度、歯科医の往診がある。往診の内容について正確に家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応に係る指針に関して家族に説明し同意書を取り入れしている。ホームの介護能力が向上してきたことから、重度化した場合もできる範囲でホームで対応する意向を持っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の生活の中で本人のプライドを尊重した声掛けを行なっている。個人情報載っている文書はほかの入居者や家族の目に付かないよう適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、自分のペースで自由に過ごしている。読書や遊び、趣味などそれぞれが生活を楽しんでいる。散歩や外出なども本人の希望に沿って支援している。		

札幌市 愛の家グループホーム札幌平岡

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて調理や片付けに参加している。スタッフが利用者と同じテーブルで楽しく食事をしている。なじみの食器を利用している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は清潔で広い。利用者は毎日入浴できるが利用者の希望で入浴の曜日を決めているケースもある。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や畑仕事、食事の準備、後片付けなどできることを自由に参加してしてもらっている。ホーム内に趣味や遊びの品物が数多く用意されている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所に買物や散歩の場所が豊富にあり、外出支援も行なっている。ホームの庭で楽しむこともできる。法人の車が確保されており外出行事の際も支援できている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵を掛けてない。ユニットから玄関へのドアも開放されている。スタッフルームが玄関近くにあり、スタッフも利用者の行動傾向を把握している。外出される場合も後からついて行き、一緒に歩くなどしている。		

札幌市 愛の家グループホーム札幌平岡

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を行っており、災害時に必要な物品も用意されている。運営推進会議を通じて地域の方にも協力を得ていく方針である。	○	避難訓練のほか、スタッフが定期的に救急救命訓練を受講し、緊急時にある程度自信を持って望めるような体制作りと緊急時の地域の方との協力体制作りを期待する。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分の摂取量を把握し記録している。食事は本部から栄養バランスやカロリーが考えられた献立がくるので栄養管理ができています。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が広く清潔でゆったりしている。2ユニットが平屋建てのためお互いの行ききもしやすく、開放的である。居間や小上がりなどくつろげるスペースが多い。臭いや音、光も調節されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各利用者の馴染みのものが持ち込まれ、安心して過ごせる場所になっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。